

平成 29 年度第 2 回物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 30 年 2 月 5 日（月） 14：00～16：30

場所：香美農林合同庁舎 1 階大会議室

出席：委員 18 名中、16 名が出席（代理出席 2 名含む）

議事：(1) 地域アクションプランについて

- 1) 物部川地域アクションプランの進捗状況等について
- 2) 平成 30 年度物部川地域アクションプラン（案）について

(2) 産業成長戦略について

- 1) 第 3 期産業振興計画 ver. 3 の改定のポイント（全体まとめ）について
- 2) 移住促進分野の取組状況について
- 3) 「志国高知 幕末維新博」第二幕の展開及びポスト幕末維新博について

議事 (1) (2) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 地域アクションプランについて

(No.3 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化)

(No.6 「なの市」「なのカフェ」の売上拡大による農家所得の向上)

（中屋委員）

還元野菜における機能性の検証や、「なの市」「なのカフェ」における「なのカフェ」の休業など、配付資料にはマイナス面が記載されておらず良い面のみを報告しているように見受けられる。

（小松中央東農業振興センター所長）

農業技術センターや農業担い手育成センターで、トマトやピーマン、葉菜類への還元水の影響を試験しているところであるが、現状は、有意差があるといった結果や、判然としないといった結果が混在している状況である。

（前田地域産業振興監（物部川地域本部））

「なの市」「なのカフェ」の取り組みについて、「なの市」は台風被害で売上が落ちた時期もあったが、ほぼ前年並みで推移している。「なのカフェ」に関しては、経営改善に向けて関係者会議で検討するなかで、経費面を含めて見直す必要があるということで、現在は一時休業しているところである。

(No.22 広域観光の取組の推進)

（島内委員）

スペインのバスク地方では地域の食文化に磨きをかけて、観光客を連れてこようという取り組みを行っている。私も県外で活躍するシェフにわざわざ来てもらって、ニラを中心に地域の野菜を食べてもらう食事会を開催し、非常に感動していただいた。こうした生産地の新鮮な食材を押し出して、県外からお金を掛けてでも来ていただく仕組みをつくる必要があると思う。

(清藤座長)

地域で取れた地元の食というものを活用して、県内外から来てもらう工夫を、長いスパンで進めていけるようにしたい。

(丸岡委員)

スポーツを観光に繋げていく取組を物部川3市が一体となって、是非、進めていただきたい。スポーツ観光が盛んな幡多地域は施設は整っているが、アクセス面では物部川地域が有利である。

(法光院委員)

香美市では、スポーツで人を呼ぶ取組を行政はあまりやっていないが、市民が主体となってやっている。例えば、バレーボールの大会で「アンパンマンカップ」というものがあり、多くの参加者がいるが、試合会場や宿泊先などは他の市の協力を得なければならない状況であり、広域で取り組んでいかなければならない。

(清藤座長)

物部川地域のアクションプランの中には、スポーツを切り口とした取組があまりないので、今後は観光＋スポーツといった取組を検討していきたい。

(山本委員)

3市には素敵な観光施設や文化遺産があるが、子ども達が足を向けなくなっている。地元で愛情を持つ子どもに育てていただくためにも、子ども達とそうした施設を結びつける取組を進めていただきたい。

(前田地域産業振興監 (物部川地域本部))

おっしゃるとおりだと思う。3市はもとより、高知市の学校の方々にも来ていただきたいと考えており、来年度に向けて、まずは龍河洞でそうした仕掛けを行っている。

(2) 産業成長戦略について

(丸岡委員)

20歳～40歳代の一番働き盛りで子どもを持った人が、高知へ移住したいと考えたときに、子どもの教育環境が重要となってくると思うが、今回の資料にはわずかに記載があるだけであり、このままの計画を実施しても他県に勝てないのではないかと。

(中畠移住促進課課長補佐)

子育て世代に対しては、育児雑誌などで高知県が移住環境が揃っていることをPRするなど、世帯、ターゲットを絞ってPRしているが、子育て支援に関しては、市町村が独自の対策をとっているため、市町村にそうした支援策のPRを充実していただくよう投げかけていきたい。